



SAYA KUBOTA EXHIBITION

アート格納庫M 第四回企画展
久保田沙耶展覧会

砂 と 泉

2024

10 / 19 [Sat]

2025

1 / 26 [Sun]

アーティストトーク

久保田沙耶 × 渡邊太 (鳥取短期大学地域コミュニケーション学科教授)

2024.12.14(土) 14時-15時半

※予約は必要ありませんが入場料が必要です。

開館時間 | 10:00-17:00(入館は16:30まで)

休館日 | 火・水曜日(祝日の場合はその翌日)

入館料 | 大人 1,000円、学生 800円、中学生以下無料(要保護者同伴)

※県民の方は入館料から200円引き

その他、各種割引あり。詳細はHPをご確認ください。



アート格納庫M
MARUJU ART HANGAR

鳥取県倉吉市秋喜350-23

久保田沙耶は、倉吉市明倫地区で行われてきたアーティスト・イン・レジデンス事業「明倫AIR」の招聘アーティストとして2017年より2023年まで毎年倉吉へと通い、滞在制作と発表を続けてきました。郷土の文化や風習、歴史、芸術作品などのリサーチを重ねる中で、1920年に中井金三らによって設立された総合芸術団体「砂丘社」とその周辺の作家たちに注目します。久保田はそれらの作品の模写を重ねることで身体的に会得した感覚から、砂丘社の同人たちが相互に技法の共有をしていたのではないかと、といった仮説を導き出し、またその技法や特徴を自らの作品制作に取り入れるという試みを続けてきました。

本展で展示するシリーズ〈とりいそぐかたち / The shape for now〉は、数年に渡る模写や作家たちの振る舞いの模倣を通じて、倉吉の先人たちに学んだ「手癖」を活かした集大成とも言える作品です。倉吉の街中で咲きかけの椿に「未来の予感」と「過去の名残」を留めた姿をみた久保田は、そのような複数の時間軸を同時に含むようなブレを含んだ絵画が描けないか、と考えたといいます。模写を重ねるうちにいつからか引けるようになってきた新たな「線」を活かし、長谷川富三郎や徳吉英雄といった郷土の作家たちがこれまでも描いてきた「椿」や、長谷寺の「絵馬」などのモチーフを、現代倉吉の風景としてあらためて描きます。久保田の作品としては珍しいモノクロの絵画は、息を殺し、先人たちの気配を感じながら、動き出す線の声を聞くことに集中した結果だと言えるのかもしれません。

タイトルの「砂と泉」は砂丘社の詩人、河本緑石による宣言文『砂丘 創生之記』(1921)に由来します。「砂丘社」の「砂丘」は倉吉の北の海沿いに広がり、過酷な灌漑の歴史を持つ北条砂丘を指します。砂丘開拓地に湧いた「泉」のように、「未墾地」に「最初の鍬」を取るようにと始まった砂丘社の歴史を、源泉から今に続く水脈のひとつひとつを辿るように久保田はリサーチしてきました。本展で久保田の描く個々の線に、複数の郷土の作家たちの気配が感じ取れるでしょう。(アート格納庫M 岡田有美子)



〈とりいそぐかたち / The shape for now〉シリーズ 《切り株》(左)、《薔薇》(右) 2024

久保田沙耶 SAYA KUBOTA

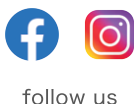
1987年茨城生まれ。東京、鳥取、宮城、兵庫などを拠点に活動。筑波大学芸術専門学群卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修了後、同博士号取得。

日々の何気ない光景や人との出会いによって生まれる記憶と言葉、それらを組み合わせることで生まれる新しいイメージやかたちを中心に、平面や立体作品、さらには独自の装置を用いたインスタレーションなど、様々なメディアを駆使しながら制作を続ける。

主な個展に「material witness」(大和日英基金/2016)、主なプロジェクトに「漂流郵便局」(瀬戸内国際芸術祭/2013~)など。



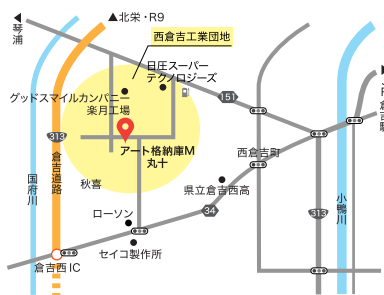
株式会社 丸十 アート事業部
〒682-0925 鳥取県倉吉市秋喜 350-23
TEL) 0858-48-2211
FAX) 0858-48-2200
[Email] info@arthangerm.com
<https://www.arthangarm.com>



follow us

交通案内

- ◎車または観光バス
- ・JR倉吉駅からタクシー約15分
- ・倉吉道路・倉吉西ICより約1km
- ・県道34号線、または県道151号線から西倉吉工業団地内にお入りください。黒色と黄色のタテ長の看板が目印です▶



アート格納庫Mは鳥取県倉吉市で創業70年以上の歴史を持つ業務用品商社、株式会社丸十が運営するギャラリーです。会社に隣接する空き倉庫を改修し倉吉とゆかりのある原口典之のスケールの大きな作品、『Oil and Water』(2003)と『Untitled FCS』(1990)を「格納」するスペースとして構想されました。原口作品に隣接する企画展示スペースでは数ヶ月に一度展示替えを行い、若手アーティストや地元ゆかりのある作家の作品を中心に展示・販売を行います。パリアフリーになっておりますので車椅子の方、お子様連れの方のご来場大歓迎です。